十月宝生会　月並能

十月十一日（日）
午後二時始

14:00

三山

ツレ　野月　聡
シテ　金井雄資

ワキ　則久　英志
ワキツレ　野口能弘
〃　野口琢弘
間　大藏彌太郎

大鼓　柿原崇志
小鼓　幸信吾

笛　槻宅　聡

後見　宝生和英
小倉健太郎

地謡　水上優
大坪喜美雄
前田尚廣
高橋亘
和久荘太郎

15:20

磁石

大藏吉次郎

大藏教義
榎本元

16:05

昭君

ツレ　佐野玄宜
子方　稲田海音
シテ　佐野由於

ワキ　森常好
間　善竹十郎

大鼓　柿原光博
小鼓　鵜澤洋太郎

太鼓　徳田宗久
笛　小野寺竜一

後見　金森秀祥
小林晋也

地謡　小倉伸二郎
朝倉俊樹
田崎隆三
佐野登
高橋憲正

〈休憩十五分〉

終演予定　十七時十五分頃

チケット料金

S席　8,000円
A席　7,000円
B席　6,000円
C席　5,000円
D(自由)席　3,000円

ご購入は
オンラインチケット
または
宝生会事務局まで

演目の解説

能「三山」（みつやま）

大原の良忍上人が、奈良の「耳成山」「畝傍山」「香久山」と合わせて三山ということを聞きます。そこに一人の女が現れ、昔、香久山にいた公成をいう男が、耳成山の桂子という二人の女に二道を掛けて通ったことを語り、桂子は耳成山の池に身を投げて死んだことを語ります。上人が桂子の菩提を弔っていると、先に桂子の霊が現れ、追うように桂子も現れると、うわなり討ちの争いを見せますが、二人共成仏して去って行きます。

狂言「磁石」（じしゃく）

遠江国の田舎者が上京する途中、近江国の大津松本の市を見物していると、ある男に声をかけられる。男は言葉巧みに田舎者を宿へと案内するが、実はそこは人買いの宿。眠った田舎者を、男は宿の主人に売り飛ばしてしまう。屋しかし話を盗み聞いた田舎者は、先回りして宿屋の主人から金をせしめ逃げ出してしまう。慌てて追いかけた男は、太刀を振り上げて田舎者に迫るが…。

能「昭君」（しょうくん）

漢王は胡国との戦に疲れ、互いに美女一人を贈ることで和睦することにし、たくさんの妃それぞれを絵に描かせ、さほど美しくない者を、胡王の韓耶将（かんやしょう）に送ると命じます。皆画家に賄賂を送って飛び切りの美女に描かせましたが、美姫王昭君は漢王の寵愛を信じ何もせず、遂に胡国へ送られてしまいます。愛娘をとられた老夫婦は、悲しみの毎日を暮としていますが、昭君の面影を鏡に映そうと用意すると、昭君の霊が現れますが、続いてる恐ろしい姿の韓邪将の幽霊も現れます。